名護労働基準監督署
〒９０５－００１１
　沖縄県名護市字宮里４５２番地の３　名護地方合同庁舎１階
電話 ０９８０－５２－２６９１
Fax ０９８０－５３－２３０４

北部地区の労働災害の状況

目　次

内容

北部地区の労働災害の概要 1

過去１０年間の労働災害の推移 1

業種別の割合 2

第三次産業の労働災害の推移 3

２０１８年の労働災害の状況 4

月別の発生状況 4

時間帯別の発生状況 4

事故の型別の発生状況 5

休業見込日数 6

年代別 7

経験年数別 8

参考 9

死亡災害事例（過去１０年間） 9

北部地区の労働災害の概要

北部地区の労働災害の概要

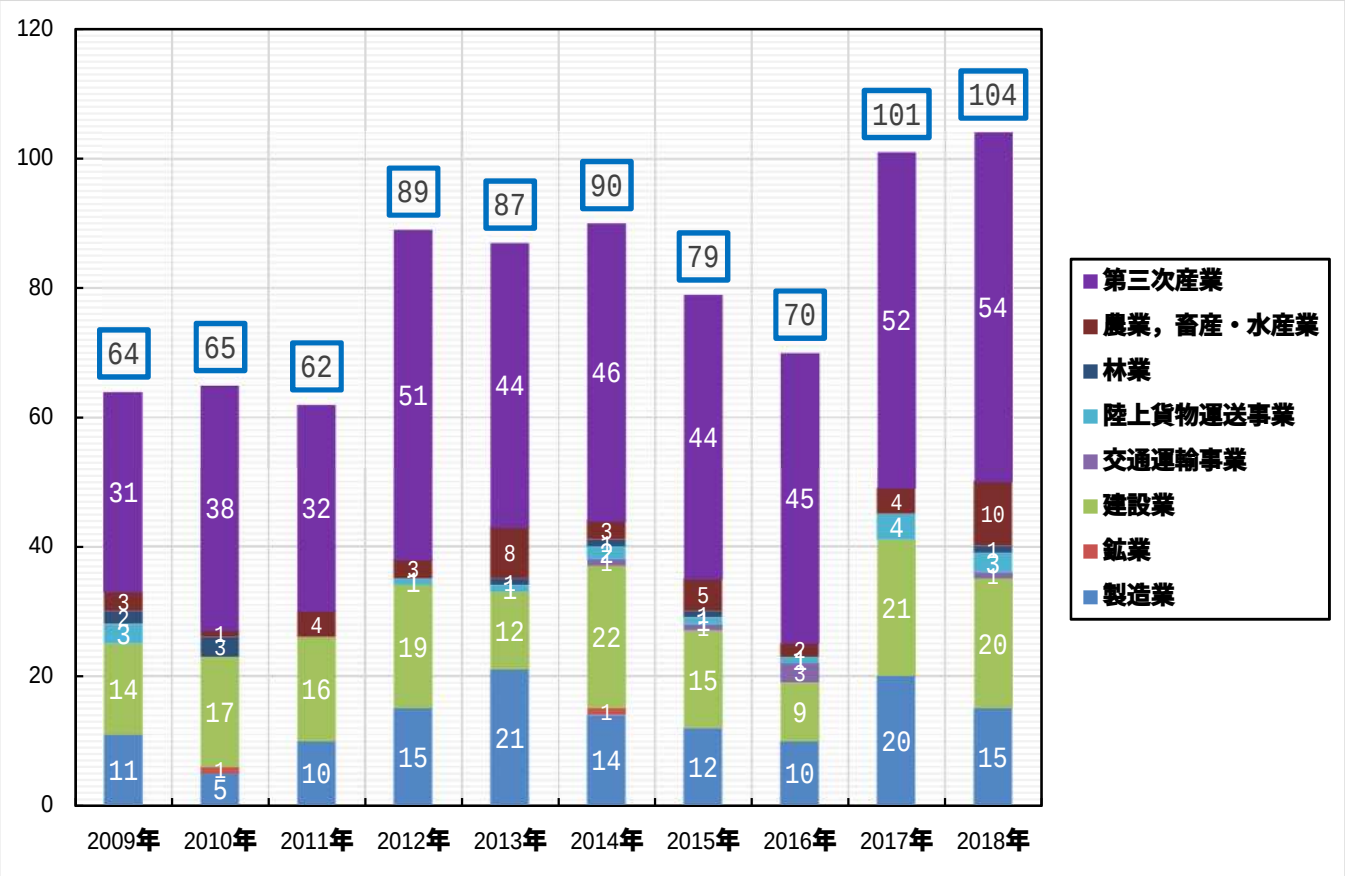
労働災害は，「休業４日以上の死傷災害※1」を，「毎年１月１日から１２月末日まで」の期間で集計しております。

2018 年の沖縄県内の労働災害は，「1,175 人」と，前年より 15 人減少しましたが，依然として高止まりの状況が続いております。また，北部地区（名護労働基準監督署管内）は「104 人」と，前年より 3 人増加し，労働災害が増加傾向にあります。

今般，名護労働基準監督署では，「北部地区の労働災害の状況」をとりまとめましたので，事業場内での安全活動等の参考にしてください。

※１　労働者死傷病報告による

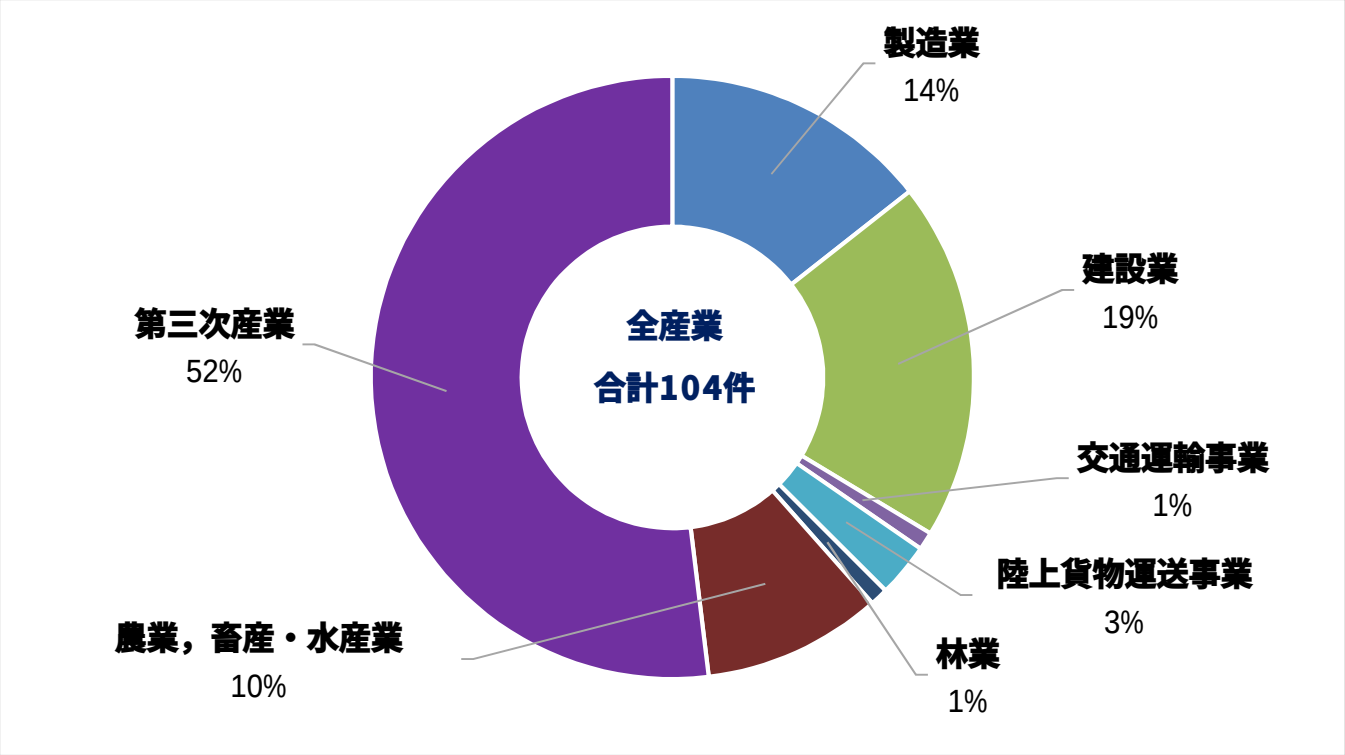
過去１０年間の労働災害の推移



- 上のグラフは北部地区における過去１０年間の休業４日以上の死傷災害の推移を示す
- 2018 年は全業種で「104 件」と過去 10 年間で最多となった
- 業種別では，　製　造　業　15 件（前年比－5 件）
  建　設　業　20 件（前年比－1 件）
  第三次産業　54 件（前年比＋2 件）　となった

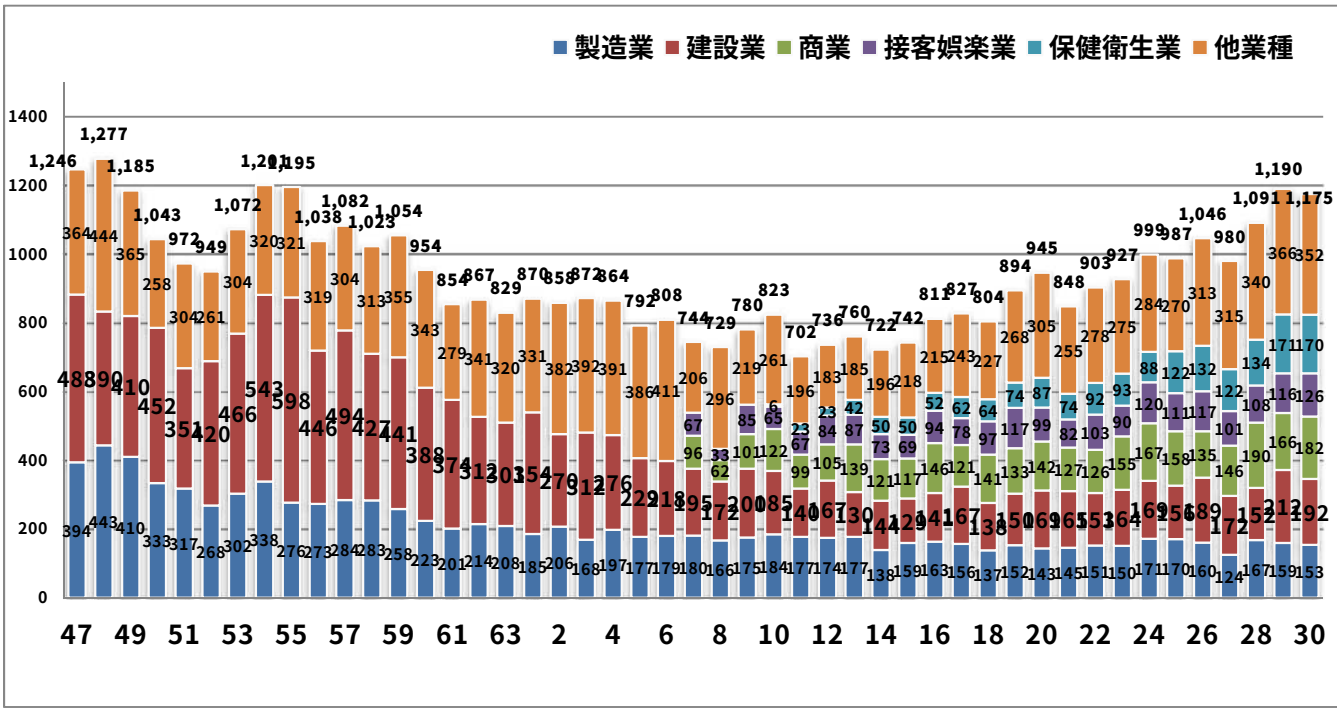
北部地区の労働災害の概要

業種別の割合



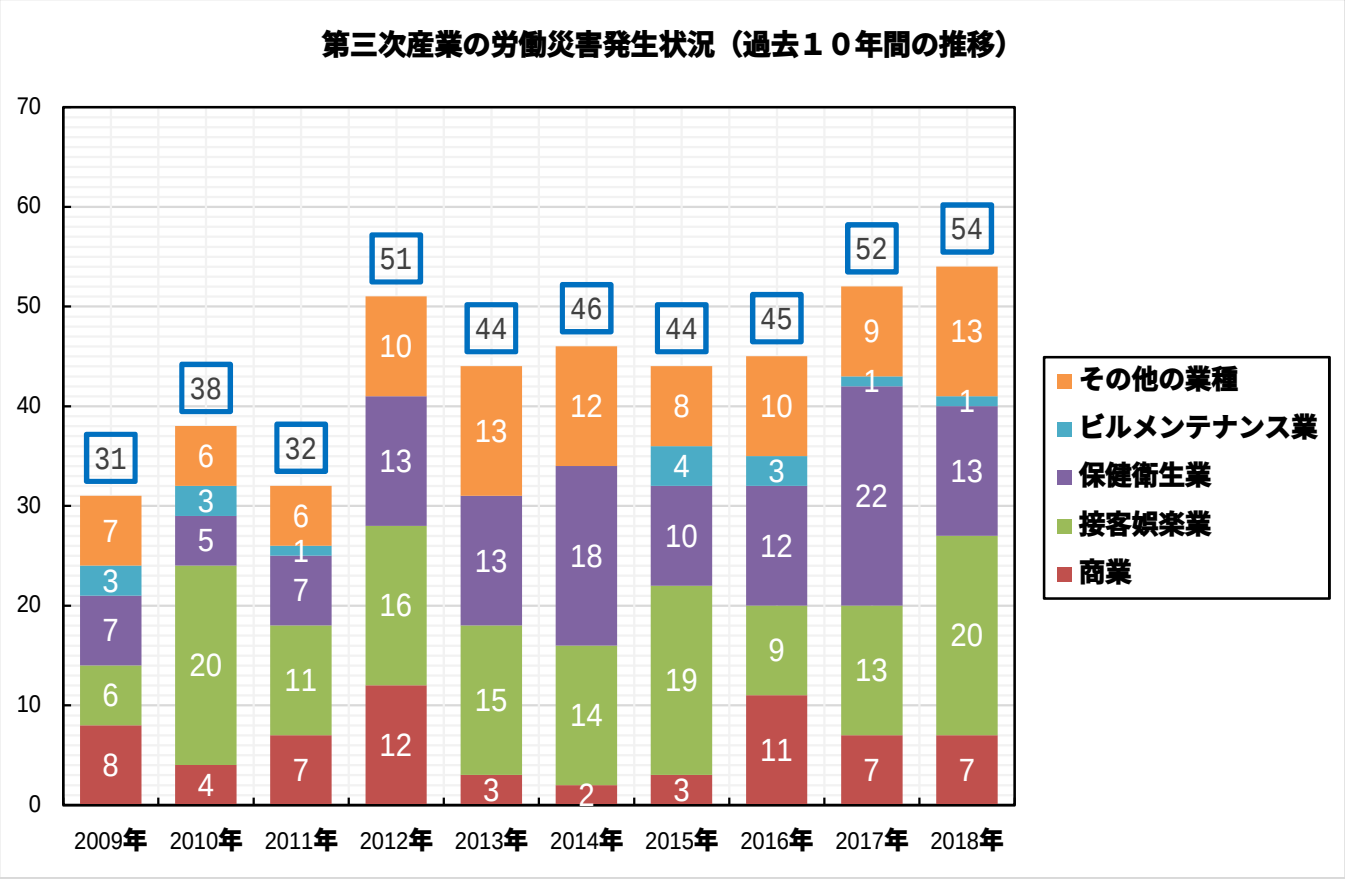
- 上のグラフは 2018 年の労働災害について業種別割合を示す
- 第三次産業が全体の 52 パーセントを占め，次いで建設業が 19 パーセントを占めた

参考：沖縄県内の労働災害の推移（昭和４７年から平成３０年まで）



北部地区の労働災害の概要

第三次産業の労働災害の推移



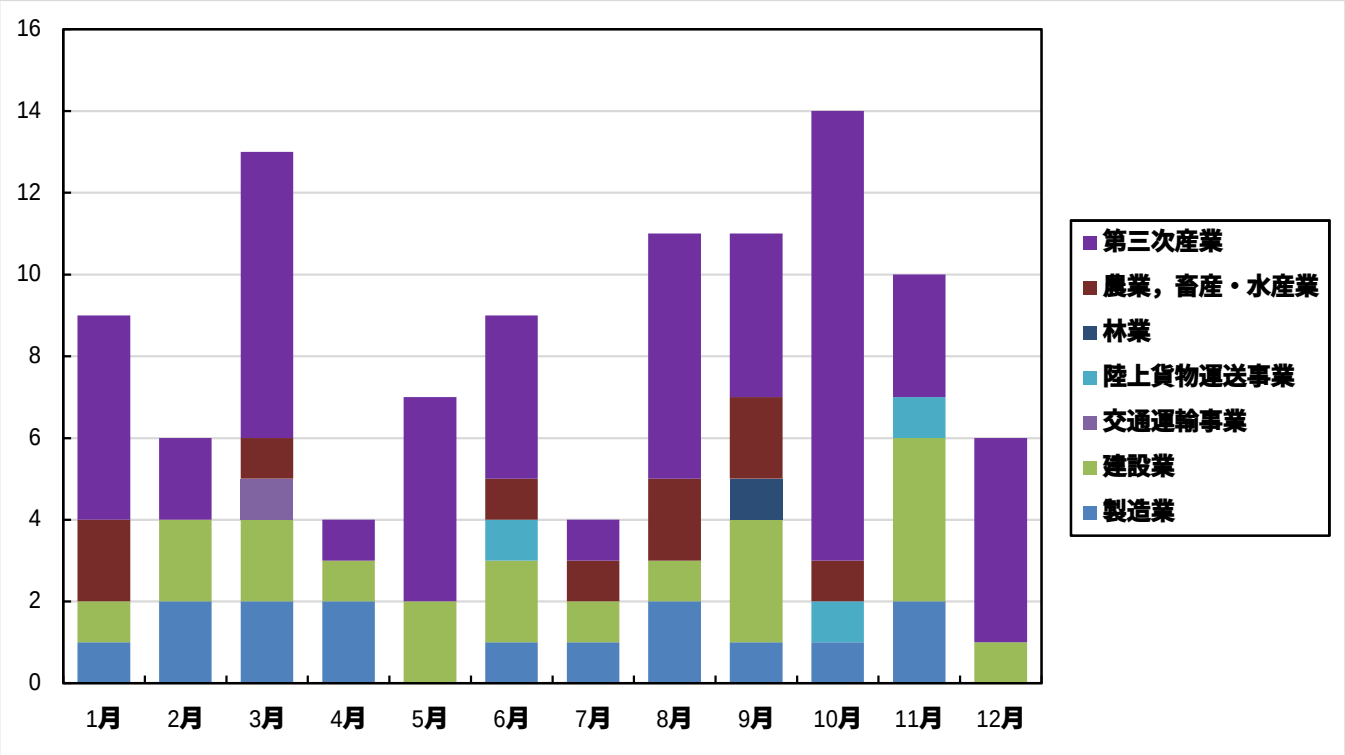
- 上のグラフは第三次産業における過去１０年間の労働災害の推移を示す
- 推移を見ると第三次産業の労働災害は増加傾向であり，2018 年は過去 10 年間で最多となった
- 2018 年は第三次産業の労働災害は，「接客娯楽業（ホテル業，飲食店等）」で最も多く発生した

※　その他の業種：金融広告業，映画・演劇業，通信業，教育研究，清掃・と畜（ﾋﾞﾙﾒﾝ除く），官公署，その他の事業

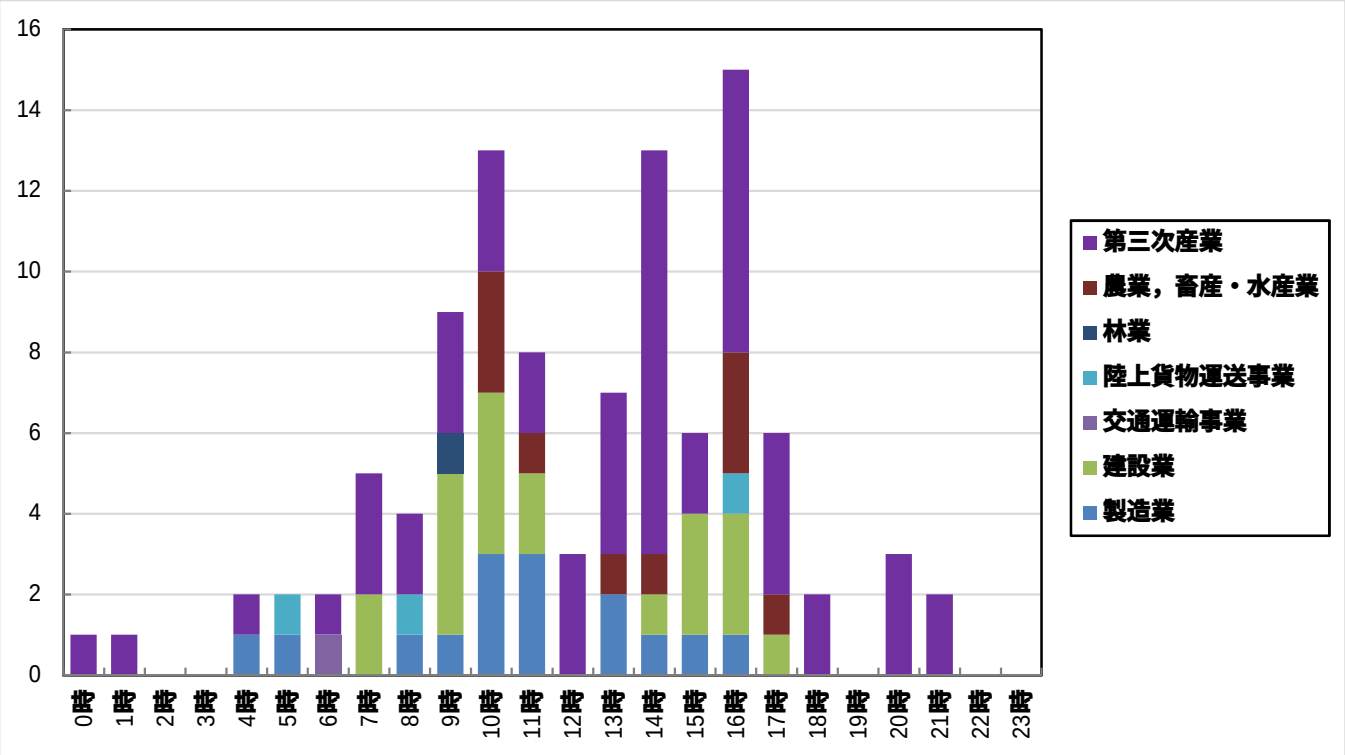
２０１８年の労働災害の状況

２０１８年の労働災害の状況

月別の発生状況

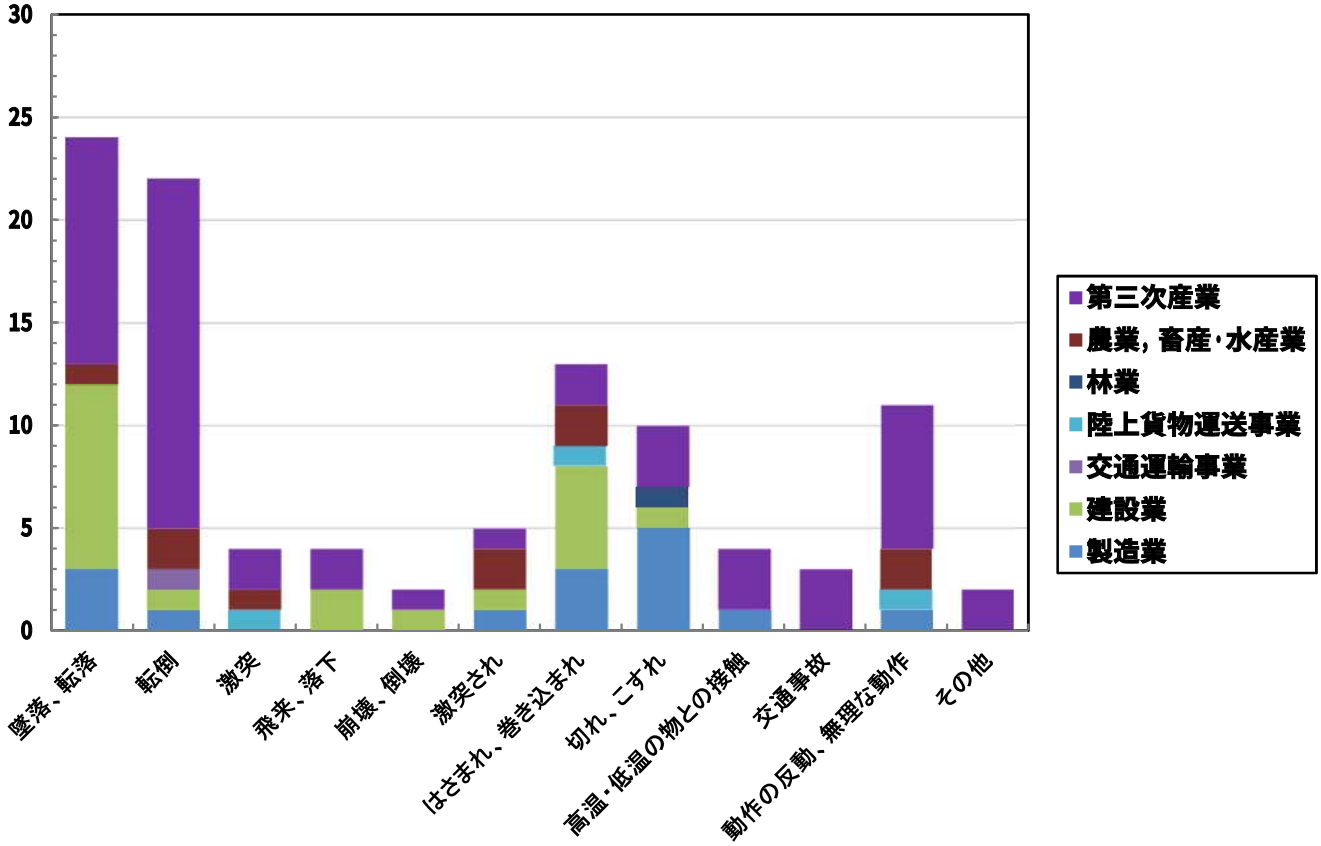


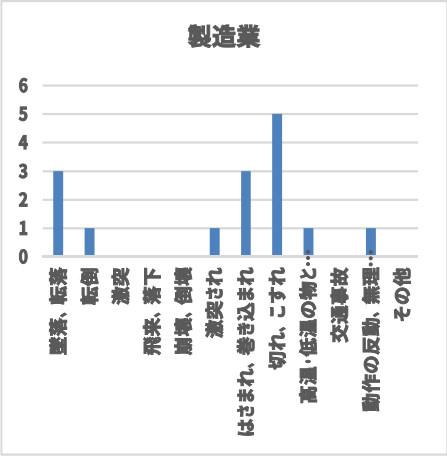
時間帯別の発生状況

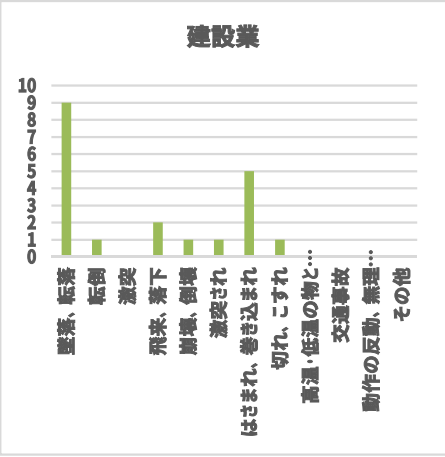


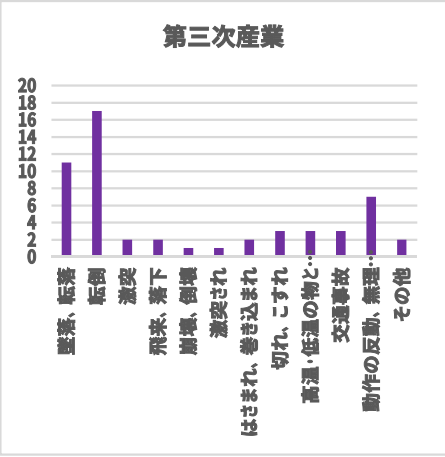
２０１８年の労働災害の状況

事故の型別の発生状況





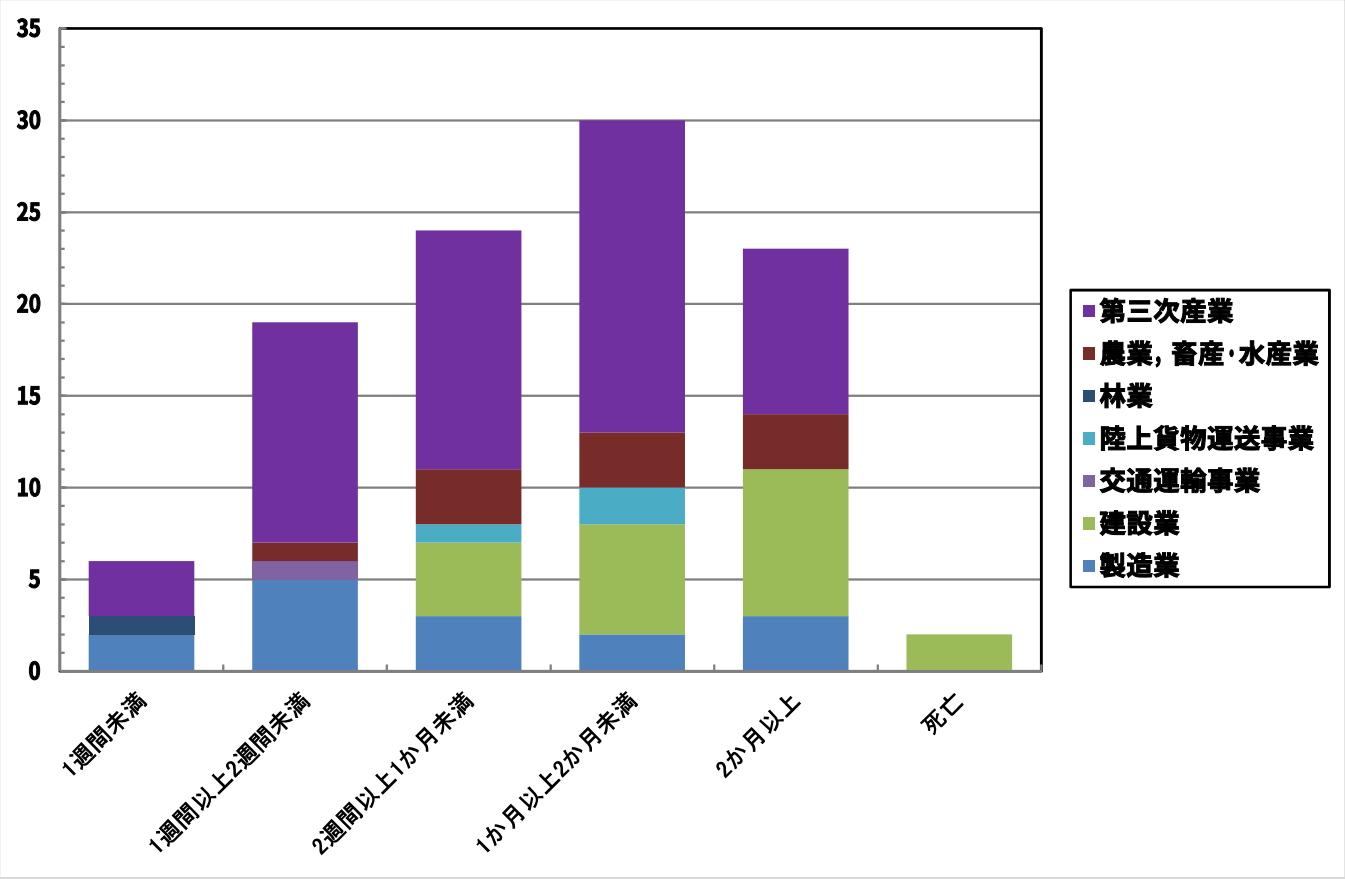




- 上のグラフは 2018 年の労働災害を事故の型別（種類別）に示す
- 事故の型は「墜落、転落」災害が最も多く，次いで「転倒」災害が多く発生した
- 業種別にみると，製造業は「切れ、こすれ」「墜落、転落」「はさまれ、巻き込まれ」
  建設業は「墜落、転落」「はさまれ、巻き込まれ」
  第三次産業は「転倒」「墜落、転落」　　災害が多く発生した

２０１８年の労働災害の状況

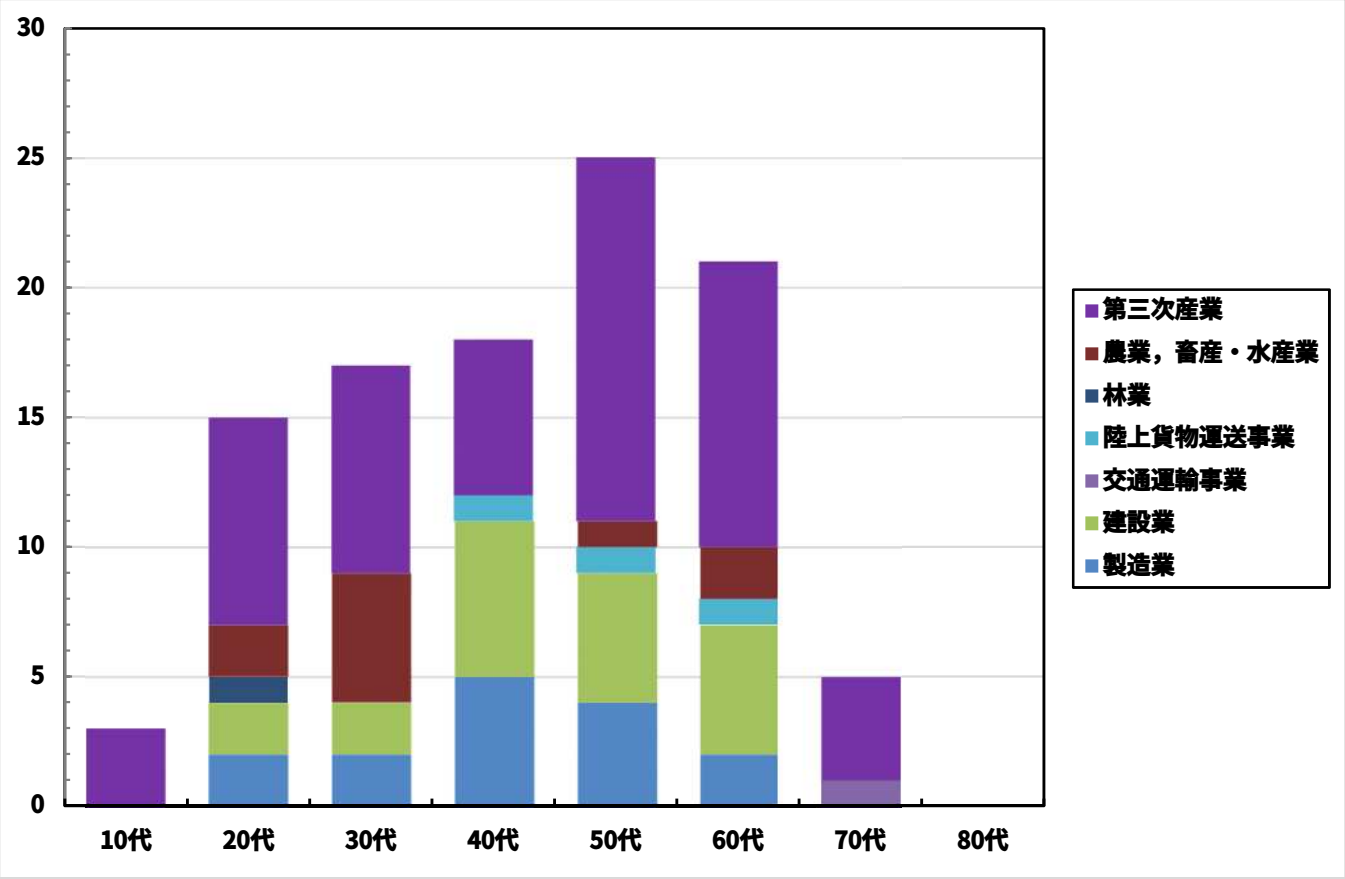
休業見込日数

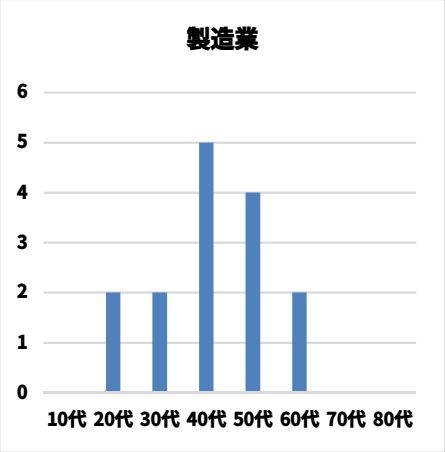


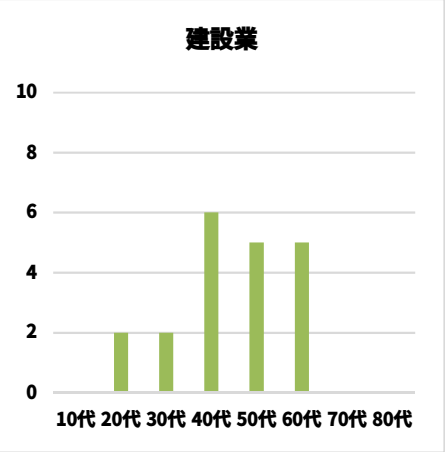
- 上のグラフは 2018 年の労働災害を休業見込日数別に示す
- 休業見込日数は，「１か月以上２か月未満」が最多であった（最長は「180 日」）
- 全業種の平均の休業見込日数は「38 日」であり，建設業は平均「61.5 日」と他業種に比べて長くなる傾向が見られた

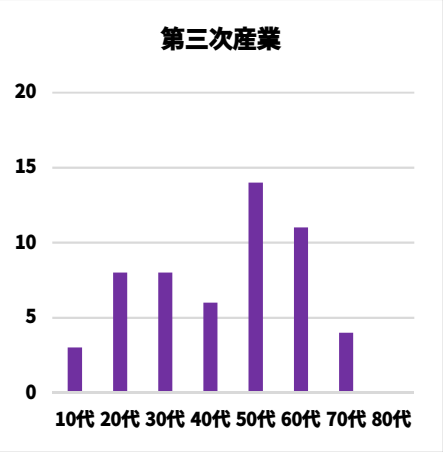
２０１８年の労働災害の状況

年代別





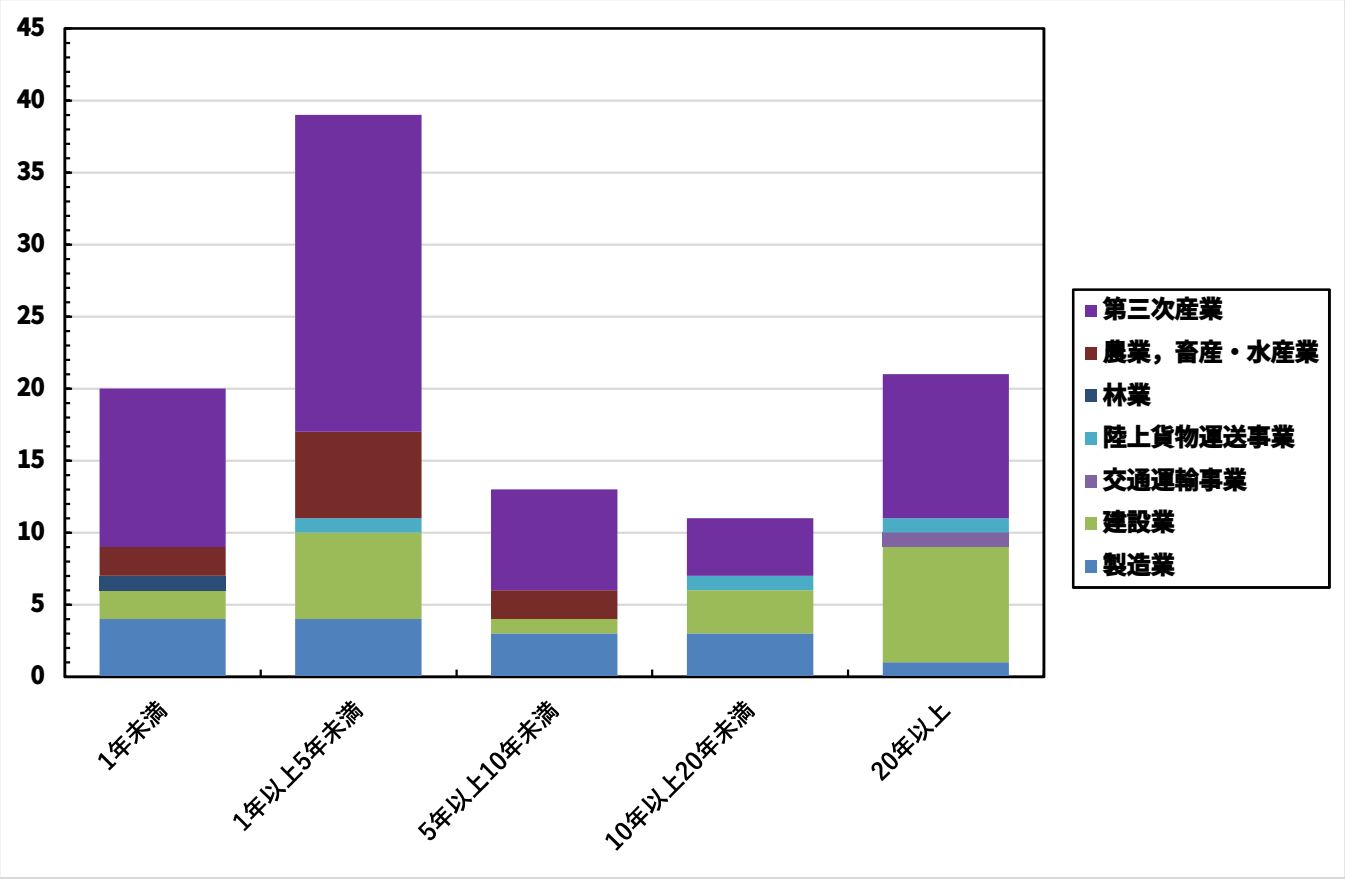


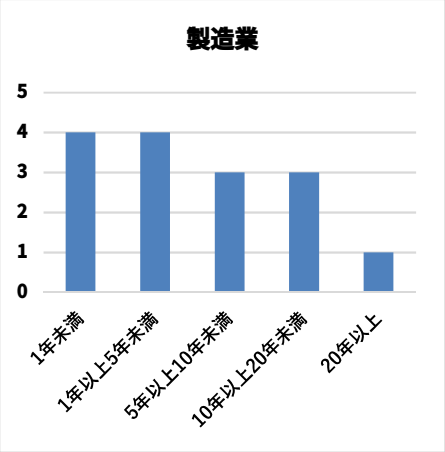


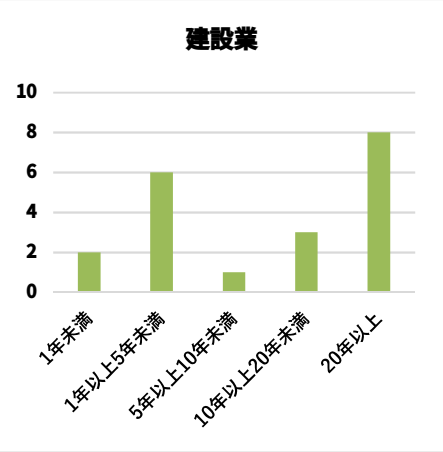
- 上のグラフは 2018 年の労働災害を被災者の年代別に示す
- 被災者は「50 代」が最も多く，次いで「60 代」が多かった
- 業種別にみると，製造業は「40 代から 50 代」
  建設業は「40 代以上」
  第三次産業は「50 代から 60 代」　が多く被災した

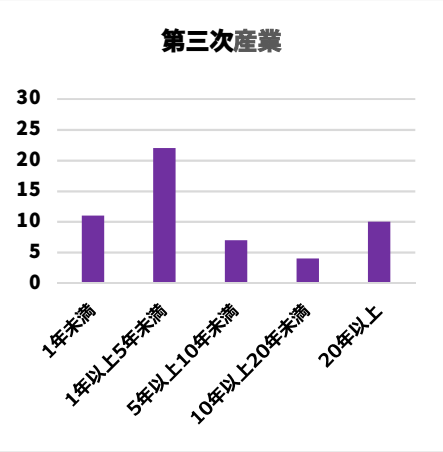
２０１８年の労働災害の状況

経験年数別









- 上のグラフは 2018 年の労働災害を被災者の経験年数別に示す
- 被災者の経験年数は「1 年以上 5 年未満」が最多であった
- 業種別にみると，製造業は「5 年未満」の経験が浅い労働者
  建設業は「20 年以上」のベテランの労働者
  第三次産業は「1 年以上 5 年未満」の労働者　が多く被災した

参考

死亡災害事例（過去１０年間）

年	年齢	業種	事故の型	概要
2009年	50代	建設業	崩壊、倒壊	村道の排水溝設置工事において、掘削箇所に近接した民家の既設ブロック塀の倒壊防止のため、ブロック塀をベニヤ板と単管パイプ、木材で支えていた。排水溝設置のため掘削箇所におりて準備作業をしていたところ、ブロック塀が倒壊し、作業員が下敷きとなったもの。
	40代	建設業	激突され	被災者は２トントラック車を運転し、土砂捨て場に向かっていたが、何らかの理由で車外に出ていたところ、停車中の当該車両が私道から竹藪に転落し、被災者に激突、車両と竹藪に挟まれたもの。
2010年	20代	建設業	崩壊、倒壊	ヤードにおいて、車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）を使用して型枠材を荷台に積み込んだ後、玉掛け用具を外して荷台から降りようとしたところ、型枠材が倒れ、被災者に激突し型枠材の下敷きになったもの。
	40代	接客娯楽業	激突され	軌道上において、被災者が電気機関車と鋼製扉の間に挟まれた状態で発見されたもの。
2012年	50代	製造業	墜落・転落	平屋建てのスレート屋根の上で雨漏り防止作業中、スレートを踏み抜き、約６．５メートルの高さから墜落しコンクリート床に頭部を強打したもの。
	60代	教育研究業	有害物との接触	台風による停電で、冷蔵庫の電源用として室内に内燃機関を有する発電機を使用していたところ、一酸化炭素中毒になったもの。
	50代	商業	はさまれ、巻き込まれ	廃棄用の耐火金庫（重さ約８００ｋｇ）を撤去するために台車を用いて移動中、金庫が倒れて下敷きになったもの。
	50代	清掃・と畜業	墜落・転落	産業廃棄物の処理場内においてドラグ・ショベルを用いて瓦礫の山の上でアームで破砕機をつり上げ作業中、ドラグ・ショベルが３．４m下方に転落し、ドラグ・ショベルのキャビンと瓦礫の間に挟まれたもの。

参考

2014年	50代	建設業	はさまれ、巻き込まれ	高所作業車のアウトリガーを格納中、被災者がアウトリガーと車体との間に頭部を挟まれたもの。
2015年	30代	建設業	飛来・落下	高圧洗浄機を用いて鉄筋の錆等を除去する作業をしていたところ、自らが使用しようとする高圧洗浄機のノズルから噴射された高圧水により、左膝付近から右大腿部にかけて挫裂創を負ったもの。
2016年	60代	農業	おぼれ	被災者はビニールハウスの側面に地上から網状の布を装着する作業を行っていたが、姿が見えないことから捜索したところ、ビニールハウスの横に在るため池に沈んでいるところを発見されたもの。
2017年	50代	建設業	はさまれ、巻き込まれ	積載型トラッククレーンに積み込んだ鉄筋を1人で積み降ろしの為に、傾斜地に停車させて左側アウトリガーを張出し下降設置させた際、前方に約8度の下降傾斜地であったため、動きだしたクレーンのアウトリガーの前方に位置していた被災者がなぎ倒され、左後輪に轢かれたもの。
	50代	建設業	墜落・転落	住宅建築現場で作業中約5.7mの足場から転落により頭などを強打し意識不明の重体となっていたが、数日後に搬送先の病院で死亡した。
2018年	40代	建設業	墜落・転落	レーダー施設のドーム取付け架台の撤去作業において、円筒状のコンクリート壁の上に跨り、約50cmスパンで埋設されていたアンカーボルトの撤去を行っていた際に、次のボルトを切断するために中腰で立ち上がり後ずさりしたところ、約3.1m下のテラス部に転落した。
	50代	建設業	飛来・落下	基礎工事用機械(くい打機)の下で、くい製作の為の穴に設けられた蓋の一部をガス溶断する作業を行っていたところ、基礎工事用機械(くい打機)の振れ止めのブレーキを掛けずにエンジンを止め、オペレーターが運転席を離れた為、数十分後にブレーキを把持していた油圧が低下し振れ止めが落下、被災者に激突し死亡した。